



◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。
北上川と共に生きた平泉文化 **第5弾**
 一栄華をきわめた奥州藤原氏一

平泉 光り輝く全盛期

三代・秀衡の時代 1157年~1187年

北方の王者・秀衡

むりょうこういん
無量光院の建立



秀衡の時代は、後白河法皇、平清盛、源頼朝が政権争いをしてきた激動の時代です。秀衡はどの勢力とも距離を保って政治力を増し、1170（嘉応2）年に鎮守府將軍、11年後には陸奥守に任ぜられ、「北方の王者」となりました。秀衡は歴代藤原氏の中で、政治的にも最大の権力を手中にしたのです。

秀衡は、基衡が造り始めた毛越寺を完成させ、無量光院も建立しました。無量光院は、京都宇治の平等院鳳凰堂を模した寺院で、鳳凰堂よりひと回り大きく造られました。

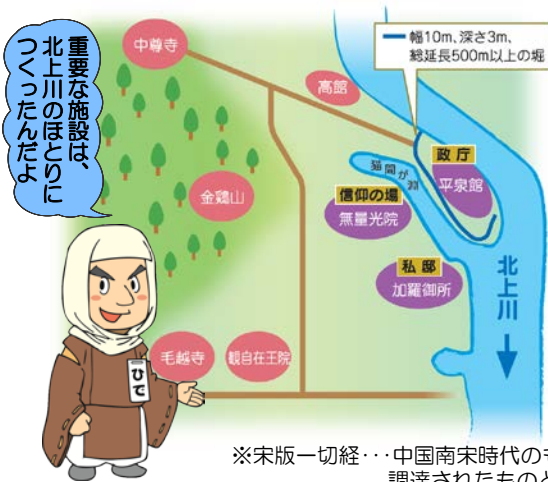
さらに平泉の市街地の建設にも力を入れ、広い範囲の整備を行いました。こうして、巨大寺院や屋敷が建ち並ぶ「都市・平泉」が完成していったのです。



無量光院跡

北上川のほとりに

中国との交わり



秀衡の時代は、公的な政庁「平泉館」(柳之御所遺跡)と私邸・加羅御所、そして信仰の場・無量光院が集まっていました。そこは、経済を支える大動脈＝北上川の河畔でもありました。

秀衡は、豊富な砂金をもとに、「宋版一切経」など中国の文物を積極的に輸入しました。

当時は、陸路より水路の方が物品を安全に運べたため、文物も北上川を使って運ばれたと考えられています。

平泉からは、中国各地の優れた磁器が数多く出土しています。当時の平泉が、京都と並ぶ文化都市だったことを証明しています。

※宋版一切経・・・中国南宋時代のもの。金字一切経書写のテキストとして調達されたものと考えられています。

※バックナンバーはこちら http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/syuttoujyo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm
 第1弾 NO.467 第2弾 NO.468 第3弾 NO.470 第4弾 NO.478

※北上川学習交流館 あいぽーと展示資料より

編集後記

河川や水辺を利用する機会が多くなる季節ですが、集中豪雨による河川の増水など注意しながら安全に楽しくご利用ください。(よ)